

会 議 録

会議の名称		平成29年度第2回守谷市地域包括支援センター運営協議会		
開催日時		平成29年8月22日（火） 開会：午後1時30分　閉会：午後3時45分		
開催場所		守谷市役所 庁議室		
事務局（担当課）		保健福祉部 介護福祉課		
出席者	委員	市丸会長代理，櫻井委員，南良委員，原委員，中荃委員， 戸田委員，染谷委員 計7人		
	その他			
	事務局	堀保健福祉部長，高橋保健福祉部次長兼介護福祉課長， 稲葉地域包括支援センター長，森山介護福祉課課長補佐， 高橋係長，中村係長 計6人		
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人
公開不可の場合 はその理由				
会議次第		1 開会 2 あいさつ 3 報告事項 (1) 在宅介護実態調査の集計結果について (2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の集計結果について (3) 第6期守谷市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（地域支援事業分）の検証について 4 協議事項 (1) 第7期守谷市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について 5 その他 6 閉会		
確定年月日		会議録署名		
平成29年9月19日		会長代理 市丸勝二		

審 議 経 過

1 開会

2 あいさつ

3 報告事項

(1) 在宅介護実態調査の集計結果について

要介護者の在宅生活の継続や介護者の就労の継続に有効な介護サービスのあり方、介護離職の観点も含めたサービス提供体制について検討し、第7期計画に反映する目的で実施した調査について、集計結果を報告した。

【主な意見】

会長代理 ありがとうございます。ニーズには対応していくのしょうけれど、どなたかご意見はありますか。

よろしいですか。意見は無いようですので、次に進みます。

(2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の集計結果について

要介護状態にない高齢者の心身状況や社会参加状況、介護予防事業の効果等を把握し、第7期計画策定に反映する目的で実施した調査について、集計結果を報告した。

【主な意見】

会長代理 ご意見ある方はいますか。地区によっては、高齢者も積極的に運動しているところもあります。高野地区は集まりが多いイメージがありますが、この結果を見るとそうでもありませんね。自由記載は個人の意見でしょうけれど、どうでしょうか。

守谷市としては、地区に限らずなるべく閉じこもりを無くして、特に高齢者がみんなで運動をするという方向に持っていきたいですね。地域によって積極的に社会参加してくれるところもあれば、閉じこもりが多いところもあるようです。地区によって状況が違ったのではないのでしょうか。集計の総括としてはどうでしょうか。

事務局 前回の第6期計画の数字を見てみると、傾向的には、地域性で見ると大井沢地区が同じような傾向だったのかなと思います。

会長代理 実際に、大井沢地区では他の地区と比べて協力し合って横のつながりで何かをやっているのでしょうか。

事務局 大井沢地区に無い訳ではなく、サロン等の出かける場としては、どのエリアにも市が展開しようとしているサロン、体操教室、集会所などの場所が無い訳ではないのですが、大井沢地区を見てみると、面白いと思ったのは、外出の頻度は一番少ないのですが、友達のところに行く割合は高くなっています。友達の所にお茶のみに行くというのは外出と思っていないのではないか

とも考えられます。

委員 外出はバスや電車に乗って出かけるもので、旧地区では、近所でのお茶のみは外出ではありません。地域差があると思います。

事務局 大井沢地区では、友達のところに行く割合を見るとそれほど低くはなく、お茶のみに行く感覚なのかもしれません。逆に言えば、みずき野地区では気軽にお茶のみに行くような関係性があるのかということです。外出といえば買い物というのが良い訳ではなく、地域によっては出かける場であればお茶のみも外出であって、友達や家族以外で愚痴を言えたりする社交の場であり、一番良いのかもしれません。

委員 大野地区でもシルバーカーを押して何軒か先まで行ったりしています。でもそれは外出ではなくて、やはり買い物に行くということが外出になっています。外出の捉え方が違うのかなと思います。

事務局 確かに、買い物となると、鬼怒川を渡った大井沢地区ではコンビニはありますが、買い物する場所がありません。

委員 大井沢地区でも、西と東では全然課題が違います。鬼怒川を挟んで捉え方が違うと思います。

会長代理 せっかく65歳以上の健康な人に調査していただいたので、地区によってというよりも、少しでも閉じこもりを減らし、皆で運動をとという方向に市が中心となってやっていきたいですね。

委員 歳をとると年々面倒になっていきます。

会長代理 一人だとなかなか出にくいですが、皆でならしょうがないから行くかとなりますので、そういうことも大事だと思います。他になれば次に進みます。

(3) 第6期守谷市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（地域支援事業分）の検証について

平成27・28年度に実施した地域包括支援センターの事業について、事業概要、改革改善の内容、実績、評価内容、現在の取組み状況等を報告した。

【主な意見】

会長代理 認知症とか権利擁護などの支援をしていますが、特に暴力はわからなくて警察通報になることもあるかと思いますが、ひどくなる前に皆さんが協力してサポートいただければと思います。ご意見はありますか。

委員 生活支援コーディネーターの件ですが、これから色々と整備をしていかなければならない部分だと思います。生活支援コーディネーターの養成について、ずっと市役所の方たちが出ているということですが、第2層は6地区に分かれたところが一つの協議体ということなので、今後どのような人選をしていくかわからないですけれども、地域の協議体の中からコーディネートする人を養成していただかないと、地域の課題や特性がうまく取り上げられたり活かされたりしないのではと思いますがいかがでしょうか。

事務局 ありがとうございます。実はこの第2層協議体につきましては、前年度か

ら準備をしまして、守谷市としては既に始まっている地域福祉活動計画実行委員会といった既存のものとリンクできればということで計画して、社会福祉協議会とも打合せを重ねています。今年度は第2層に関して地域へ説明会に行っています。第2層というのは、一番大事なみんなが意見を出し合って集う場であり、それが元々無い市町村では新たにつくるといったことをしていますが、守谷市はそこを大事にしたいということで、社会福祉協議会と打合せ、地域に出向いて説明会をさせていただいたところもあります。

コーディネーターはとても大事であり、地域の実情を知っていてみんなの声を拾うためにというところで、市としては、社会福祉協議会が地域福祉活動計画の中心となるところで、各地区に担当職員というかたちで配置していることから、社会福祉協議会にも説明して、ずっと入ってもらっている担当職員をコーディネーターとしてお願いするということで了解をもらっています。

地域包括支援センターの職員も地区担当制にしていますので、地域福祉活動計画の中では、介護の場面の話ばかりをするのではなく、生活全般の話をする中に私たちが入り、例えばニーズ調査結果から地区の傾向を情報提供や投げかけをして、その中で自分たちの課題を考えてもらえるようなものにしていきます。社会福祉協議会職員に担当職員として入ってもらったところに地域包括支援センターの職員も入ってバックアップするといった構想で考えています。

委員 地域福祉活動計画は2期目ですが、5年かけてようやく地域の顔が見えてきて、それぞれ課題も違うし、地域差もあるので、そのコーディネーターはとても大事なことです。やはり地域密着が大切かと思えます。地区によって本当に課題は違います。そこでコーディネーターも上手にやれると良いと思えます。コーディネーターと地域との密着です。やってきて本当に顔が見えるようになってきました。まだまだ課題はいっぱいありますが、その中に入ってもらおうとネットワークや色々な面で違うと思っています。市の担当と社会福祉協議会の担当と地域包括支援センターの担当がそれぞれ入り、色々な層が一つになれるのかなと思えます。

事務局 守谷市の中でこれから強化を図る部分の一つとして、社会福祉協議会があると思えます。委員からありましたように、6地区の活動というのは他の自治体にはあまりないところです。これをベースにするというのは大事で、各地区に社会福祉協議会の職員が入っているので、これからコーディネーターの役割を果たしていただくと、社協の働きもスムーズになっていくと思えます。行政としても、人材確保などは考えています。

委員 地域にも優秀な人材がいらっしゃるので、その人たちを活用していくことが地域の底上げになるのではないかと思います。

委員 在宅介護支援センターの方も地域福祉活動計画の中に実行委員として入っていらっしゃいます。在宅介護支援センター、社会福祉協議会、市役所の担

当の人が入り、そこに医療関係や施設関係などの色々な業種が混合するのが地域だと思います。その辺が一番入りやすいのが地域福祉活動計画で、5年で少しずつ進んでいると思います。

事務局 何年か経ってくると、地域の方々の中にもうまくコーディネートできる方が出てくるのではないかと思います。

委員 そういう底上げをしていただけるような人材が地域の中で育っていくような取り組みが必要ではないかと思います。

事務局 今年市長がタウンミーティングで各地区を回っています。高野地区の方がおっしゃっていたそうですが、地域福祉活動計画を一生懸命やって、色々なところに出て行っているが、同じような人ばかりで次の世代が育っていないと。次世代の育成も考えて欲しいという話がでたそうです。今、地域福祉活動計画で活動している人は、今の活動で精一杯のところがあります。新しい人が加わって新しいことを提案していかないと、疲れてしまうようなところもあるそうです。

委員 地区の中でも視点や価値観の違いがあるので、いかにまとめるかが大変になっていますが、そこにコーディネーターが入ることになればすごく良いのかなと思います。

会長代理 時間のため先に進めます。

4 協議事項

(1) 第7期守谷市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について

計画の基本方針、構成についての案を提示して説明した。

委員からは、在宅介護を継続していくためのサービス基盤として、介護予防・日常生活支援総合事業における緩和された基準によるサービスの検討、認知症高齢者の増加に伴い課題となる夜間・休日の支援体制等について意見をいただいた。

【主な意見】

会長代理 素案の素案ということですね。ご意見のある方はいますでしょうか。

委員 医療のベッド数を減らし、在宅へシフトしましょうという話から、サービスを行う側としては、危機感を感じます。何故かと言うと、介護職員が本当に少なくなっています。けれど、専門的な介護を必要とする利用者はたくさんいます。本当に切に思うのは、本当に専門的な介護を必要としている人には、私たちはそういうサービスを提供していきたいと思っているので、地域支援事業が今後どうなっていくかわかりませんが、通所介護や訪問介護といった切り離される部分について、ぜひその辺りで専門職までは必要ない人たちと、本当に専門職が必要な人たちを、緩和されたサービスでも大丈夫な人の群、重点的に専門的なサービスを必要としている人の群に分けていただくと。今本当に介護職員が足りなくて、でもサービスの依頼はどんどん来るのですが、断らざるを得ないような状況になっていて、その人は一体どこに

行くのだろうという不安もありますし。具体的には言えないのですが、新しいサービスで、そこまで専門的でなくても大丈夫な群の方たちが行くところをつくっていただけるとありがたいと思います。

事務局 介護保険法の改正が行われ、多様なサービスができるようになりましたが、守谷市の場合は、おっしゃる通りで多様なサービスの部分は無く、従来型のみなしと呼ばれる部分をつくただけです。国の制度によると、緩和されたサービスは単価が低い訳です。他の市町村は従来型のサービスに加えて単価の低い部分をつくるのですが、だからといって新たなサービス事業所が参入している訳ではないので、従来の人たちが、単価の低いサービスと今までのサービスの2つを持っているような状況が生まれています。結果として、やっている仕事は変わりませんので、事業者としては、負担は変わらないけれど報酬が減っている、もしくは負担は若干減ったかもしれないけれど報酬が少なくなっているというような、制度の悪さがでていているように思います。おっしゃる通り、新しい事業者として、例えばシルバー人材センターの特別版がうまくできて、専門的ではないけれど専門的な人が少し加わることによってできますと。今までの従来型のサービス事業所だけで行う多様なサービスではなくて、多様なサービスをメインとしたサービス事業所ができるというのが理想だと思いますし、シルバー人材センターもそういったものを少しやりたいということで研究はしているのですが、正直なところすぐにはできません。訪問型の場合は特に、人の家に入れる人材が育たないというか、どうやって育てたら良いのかという状況です。

委員 やはり誰でもいい訳ではないですし、視点が全然違います。施設では職員の質が低下しています。職員間も精一杯で、精神的、肉体的に疲れているところに利用者は増える一方です。介護は誰でもできるわけではないと思います。やはり思いやりがあって、ある程度介護の心が育っていかないとできないというのがあるので、これからどうなるのかと思います。

委員 つくっていかないと、あぶれてしまうだけです。

事務局 シルバー人材センターもやる気はあるようです。

委員 やる気があるのであれば、勉強会する機会を設けてはどうでしょう。

委員 研修として、デイサービスでどんなことをやっているかを見たいということであれば、いつでも見学は受けられます。

委員 施設としても、指導するには時間的に難しいので、現場を見るというのも一つの方法だと思います。

事務局 提案して、現場を見てもらうようにしたいと思います。

会長代理 シルバー人材センターはやる気のある人が多いと思いますので、介護福祉課でコーディネートしていただければと思います。

事務局 高齢者の増加に伴って認知症が増えるのは当り前のことですが、徘徊も多くなっています。夜間や週末で市役所が閉庁している時に何か起きています。週末や夜間であっても、在宅での生活は24時間365日関係ありませ

ん。地域包括支援センターの強化はしたいのですが、少ない人員で365日稼働するという訳にもいきません。実際は夜間・週末に起きている相談や対応について、何かしなければならぬと考えています。今、現場での介護職の少なさなどのお話を伺い、少ない人数でやっている福祉の現場というのは肌で感じ始めているところです。今までは何となくやっていたことですが、今後ケースが増えていった時に上手く稼働しなければ、私たちも皆さんも安心できないと思います。実際に、徘徊している人を民生委員さんが施設に連れていったという事例がありました。例えば24時間対応の依頼がある場合、いかがでしょうか。ケアマネジャー業務としても、週末や夜間に色々な相談を受けていると思いますが。

委員 SOSネットワークの登録はされている利用者さんですが、登録したのが冬だったため冬物の服にシールを貼っていて、夏に外で家族が目を離れた隙にいなくなってしまう時にはシールを貼っていなかったということがありました。夏物と冬物に貼ってもらうことを周知するなど、細部に亘って説明していただけると違ったかなと思います。

事務局 ありがとうございます。周知したいと思います。

委員 その方は、在宅生活も大変なのですが、特別養護老人ホームでもかなりの徘徊があると受け入れてもらえず、グループホームの申込みもしていますが、年齢的に生活の質が落ちてしまうのではないかと色々と悩める事例ではあります。

委員 ある人の話ですが、デイサービスに行っているはずの高齢者が近所の家に行っていたのを、家族も通所の施設職員も気づいていなかったという事例がありました。

委員 職員配置は基準以上ではあるのですが、本当にフルのケアをするための人員には足りなくなってきました。それに加えて、今の若い世代は、気づく、気配を察知するという能力が低いので、そういったレベルの問題もあります。うちの施設に来た方については、最終的な確認をする時に個人情報の壁があちこちでありました。その辺についても、介護の対象者になった方については、市の方でこの事業所とは個人情報について介護の業務上の提携をしているということにしないと、見つかっているのに確認できない状況が続いてしまいます。介護を利用している方については、共有できるようにしないとイケませんね。

委員 在宅でも家族がいても見逃してしまうことはどうしてもあるので、その辺はある程度オープンにしなければならないと思います。

委員 個人情報とはということを再確認すれば、必要に応じて確認しても良いことになっているはずですが。その原点があまりにも大きくなりすぎてしまって、問い合わせても判断ができないので教えられないとなってしまいます。市がオープンにして、この方についてはこの事業所へといった協定を結んではどうかと思います。

会長代理 個人情報 の取扱いについて計画書に入れてもらっては どうか でしょう。

委員 ネットワークについては、色々な考えがありますが、最終的にはやはり職員の負担になるということが大きいです。今、法人で取組んでいるのですが、職員には仕事量が増える、24時間待機状態が発生するという不安があります。今は介護保険外の健康な方を考えていて、情報発信としては少なく、当番制であればそれほど無いだろうという考えですが、オンコールに対しての対価とそれに対しての予算はどこから出てくるのかという話になります。市の業務として委託などをするのであれば予算化ということで計画書に入れなければなりません。地域にあるものをうまく結びつけて活用していくしかありません。地域支援事業は項目ごとに予算がついているのだと思いますが、この辺は国も考えないと行政がパンクしてしまうのではないかと思います。外部委託もできるので、委託できるところを広げていけば、色々なものが出てくるのではないかと思います。

会長代理 時間が ない ですね。

委員 他市町村の計画書を見ると、タイトルが付いています。守谷市もそういったものを付けるともっと市民目線になって、遊び心も少し出るのかなと思います。そうでないと本当に行政が作った計画で終わってしまうという気がします。

会長代理 はい。ということで、よろしいでしょうか。

5 その他

(1) 次回の会議日程について

平成29年10月24日(火)午後1時30分から開催することとなった。

6 閉会